

学校だより

9月号

港区立白金小学校

発行人 吉野 達雄
令和三年 九月一日



夏の出来事

【校舎を大事に使いたいと思う】

我が校の現在の校舎は、昭和五十五年に建てられた四十一歳の伝統ある建物です。少しずつガタがきはじめていることは否めませんが、それでも子供たちが安全に過ごせるようにいろいろな箇所を修繕しながら教育活動を展開しています。この夏、校舎の外壁工事が行われました。塗装をし直し、少し若返ったのではないでしょうか。また、校舎内は主事たちが、清掃するとともに廊下にはワックスをしつかり塗りました。ピカピカの廊下は歩いていて気持ちがいいです。このように少しでもきれいにしようとする人たちが努力しています。私たちもこの白金小学校の校舎を大切に思い、大事に使ってきたいですね。

もうひとつ、工事業者の方に感謝することがあります。それはピロティにあるつばめの巣。つばめたちが巣立つまで工事をしないでいてくれたことです。八月の終わりに無事に巣立っていきました。ありがとうございます。

【オリンピック・パラリンピックから多くのことを学ぶ】

オリンピックでは、多くの選手が活躍しメダルラッシュの感動の東京大会になりました。それぞれの選手のこれまでの努力やプレッシャーに打ち勝つ精神力など、学ぶべきことがたくさんありました。また、国を越えた選手が手を取り合ったり、励まし合ったりする感動的な姿を見ると、「友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現」というオリンピックの精神をより強く感じることができました。

現在、開催されているパラリンピックからも多くのことを学びます。できないことに着目するのではなく、どうしたらできるのかを考え、限界に挑戦していくという考えがあるそうです。そんなパラリンピアン達の素晴らしい力や努力に感動させられます。オリンピック・パラリンピックから学んだことを今後の生活に生かしましょう。

「国際科」授業の充実 英語が話せるって楽しい！

研究主任 間宮 多恵

今年度は、「国際科」の研究を進めています。研究主題を【相手意識をもって主体的に伝え合うことのできる児童の育成】としました。高学年では、自分が考えたこと、調べたことをもとに、日本のことや世界のことについて話し合ったり、発表したりすることを目指しています。そのために、低学年や中学年ではたくさん発話できる授業の流れを「白金スタイル」として提案し、実践しています。単元の最終場面で、学年や学級の実態に合わせた、「魅力的な言語活動」を考えることを大事にし、子供たちが楽しみながら「英語で伝え合う力」を付けられるように教材研究を深めています。

一学期には、五年生、四年生、六年生の順に毎月「研究授業」を行いました。五年生では、日々積み重ねている一分間のフリートークやタブレットを活用した夢の時間割の会話、四年生では、タブレットを活用したクイズのやり取り、そして六年生では色々な国のプレゼンテーションを行いました。それぞれの学年が、学年の実態に応じた様々な表現を身に付け、生き生きと英語で話していました。

本校では、「国際人としての資質」を養うために、積極的に英語を使い、進んで友達や先生はもちろん、世界中の人々とながりをもち、コミュニケーションができる児童を育てていきたいと思っています。今年度の成果は一月に、全国発表にて発信する予定です。

白金小学校を卒業するときには、「英語で話せるよ！」と自信をもって巣立って行けるように研究を行っていきます。

白金小学校
Twitter



学校HPからも
入れます。